

平成28(2016)年度

姉妹都市ニュージーランド研修旅行

報告書

8月11日～8月20日



目 次

ニュージーランド研修旅行について	1
ニュージーランドについて	2
姉妹都市マスタートンについて	3
出発までの旅行説明会・事前学習会の記録	4
日程表	5
全日程の概要(日記)	6
参加者感想文	14
米原 希	
小田 レイジ	
谷口 大斗	
桑原 希羽	
櫻井 絵理	
横内 遥香	
西田 幸一	
佐藤 萌 (引率者兼通訳者)	
倉田 耕三 (引率者)	
姉妹都市マスタートンでお世話になった方々	33
参考資料	34・35

ニュージーランド研修旅行について

廿日市市とニュージーランド・マスタートンとの交流は、平成4年(1992)年に廿日市市の木材関係の企業がマスタートンに工場をつくり、ニュージーランドに進出したことをきっかけに始まりました。その後、相互にホームステイを受入れたり、学校間で文通をしたり、市民の描いた絵画を交換するなどさまざまな交流が広がり、廿日市市国際交流協会では平成8年(1996)年から海外視察研修を主催し、市民の皆さんに交流の機会を提供してきました。

平成10(1998)年4月21日、廿日市市とニュージーランド・マスタートンは「市民が主役の国際交流を深めることにより、両市の市民がお互いに心から理解し合えること」をめざして姉妹都市になりました。

姉妹都市提携後、国際交流協会では、廿日市市の未来を担う中学生・高校生を中心に、マスタートンの人たちの暮らしや文化を肌で感じ、学生をはじめとする地元の人たちと交流する機会として、ホームステイ研修を継続実施しています。開始当初、この研修は何度もの抽選を経て参加者10人程度を選ぶ状況で、毎年実施していましたが、個人での語学留学や海外の姉妹校との交換留学などが盛んに行われるようになった近年は、隔年で実施しています。

今年は廿日市市とニュージーランドマスタートンとの姉妹都市提携をして19年目です。この海外研修旅行も回数を重ね市民レベルでの交流も深まってきており、そのためかマスタートンでの市長や議員を始めホストファミリーの皆さんの受け入れも非常に心温かいものでした。このことについては参加したみんなが感じていることだと思います。

参加したのは中学生4名、高校生3名と引率者2名(国際交流協会職員、市職員)の合計9名でした。

この研修に参加した学生たちは、ホームステイを通じて、人との関わりの大切さを学ぶなかで、廿日市市とマスタートンとの架け橋としての役割ができたのではないのでしょうか。

	ニュージーランド	マスタートン	日本	廿日市市
人口	約 465 万人	約 2.3 万人	約 1 億 2685 万人	約 11.7 万人
面積	268,680km ²	2427km ²	377,835km ²	489km ²

ニュージーランドについて

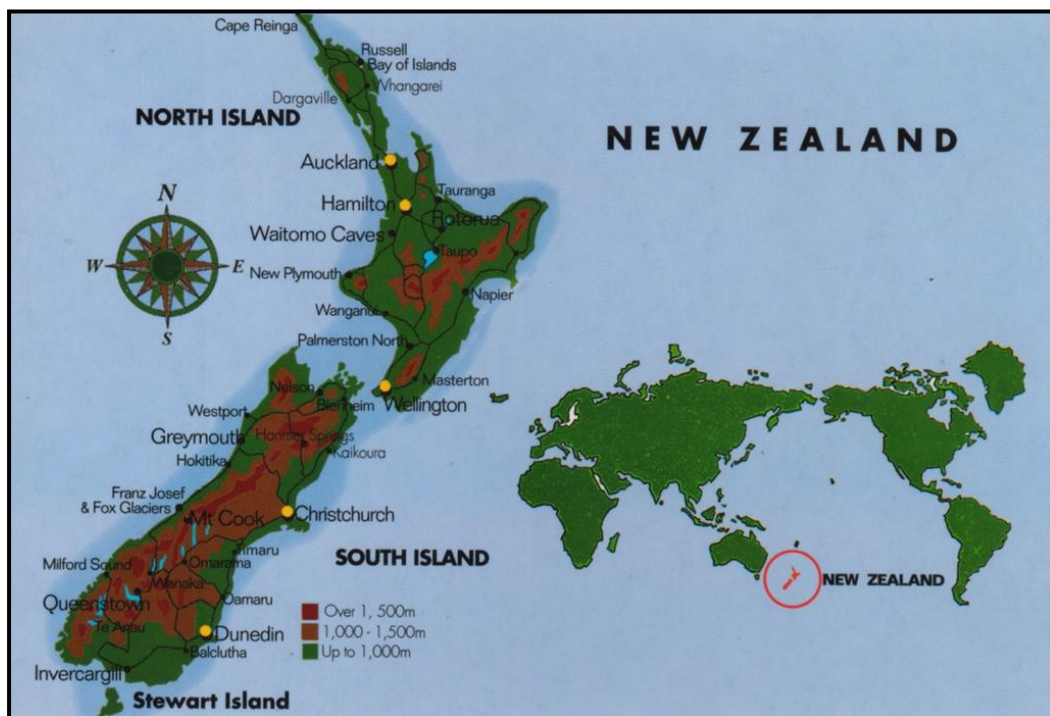
ニュージーランドは、日本から9000km以上(時差3時間)離れたところにあり、非常に遠く感じますが、意外に日本と似ているところが多く親しみを感じる国です。同じ島国で、山、海、火山、温泉などがあり四季もあります。ところが、南半球にあるため、季節が日本の逆で8月はニュージーランドの冬です。

大きな島が二つあり、北島と南島と呼ばれています。これ以外に小さな島もたくさんあります。日本では北に行くほど寒くなりますが、ニュージーランドでは反対で、南島の方が寒く氷河などがあります。

ニュージーランドといえすぐに羊を思い浮かべるでしょうが、本当に羊が多く人口の約7倍います。しかし、ニュージーランドの牧場では羊だけを飼っているわけではありません。また、牛の数も人口を上回っているようです。お米はほとんど作られず、主に小麦や大麦などが平野部で作られています。

ニュージーランドは非常に古くから島国であるため、ニュージーランドでしか見られない動物(特に飛べない鳥など)がたくさんいます。しかし、人間の歴史で考えれば、ニュージーランドは非常に新しい国です。10~11世紀頃(日本の平安時代)、ニュージーランドの先住民(マオリ族)が南太平洋の諸島から移住し始めました。それまで人は全く住んでいませんでした。

また、現在、人口の80%を占めるヨーロッパ系の人々が19世紀になってから移住し始めました。人口は、約465万人です。

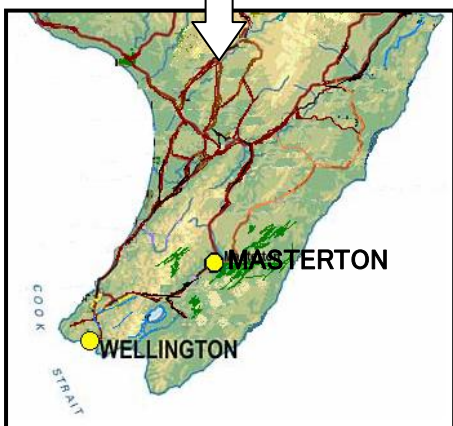
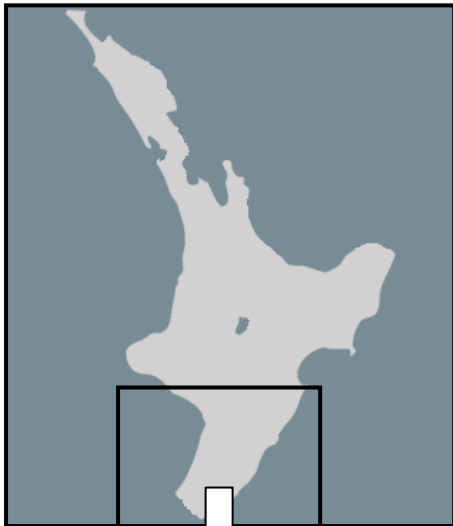


姉妹都市マスタートンについて

マスタートンはニュージーランドの北島の南部にあるワイララパ地方に位置し、首都のウェリントンから105km(車で約1.5時間)離れたまちです。面積は2427km²で廿日市市の約5倍ありますが、人口は約2.3万人で廿日市市の約5分の1です。街の中心部は約800mの道沿いにあり、高い建物はありませんが、様々な業種の店が並んでいます。夕方までにぎやかな通りも夜には人影も少なく、静かなまちに変わります。

街を少し離れたら、緑の牧場と大きな空がどこまでも続きます。西側は1000mを越える山が並び、冬は山頂に雪が積もり、とてもきれいな風景です。また、山の斜面が木に覆われ、自然そして緑が多い所です。一方、東の境界は海となっており、エビやカニなどの漁業も行われています。東の丘陵地域では植林が行われ、木材関係の産業もたくさんあります。

マスタートンは比較的風の強く吹く位置にあるため、とても空気が澄んでおり、特に冬の朝日が昇る頃はそのまま日本に持って帰りたくなるような素晴らしい景色を眺めることができます。



どこまでも続く緑の牧場と大きな空



マスタートンの街並み

出発までの旅行説明会・事前学習会の記録

1 旅行説明会

- ① 日時 6月4日(土) 19:00~20:30
 - 1 海外研修旅行・ニュージーランドの概要について
 - 2 旅行諸手続きについて
 - 3 事前学習会について
- ② 日時 7月31日(日) 14:30~15:30
 - 1 これまでの様子・今後の日程、旅行中の注意事項
 - 2 旅行会社からの説明
 - 3 研修後の報告書の作成、報告会について



2 事前学習会

- ① 日時 6月24(金)18:30~20:00
 - 1 研修旅行の概要説明
 - 2 自己紹介(名前当てゲームで質問や自己紹介を英語で実施)
 - 3 パフォーマンスの話し合い
 - 4 ホームステイ先に送る自己紹介カードの説明
- ② 日時 7月1日(金)18:30~20:00
 - 1 ニュージーランドの紹介、歴史について調べて来たことを発表
 - 2 英会話(空港編)
 - 3 パフォーマンスの内容を決定(「R.Y.U.S.E.I」「Share The Love」のサビをダンスで!)
 - 4 出発前の一言メッセージ、日記・スピーチの担当を決める
- ③ 日時 7月8日(金)18:30~20:00
 - 1 ニュージーランドの紹介、歴史について調べて来たことを発表
 - 2 自己紹介スピーチの練習、文化紹介原稿チェック
 - 3 英会話(ホストファミリー編)
 - 4 パフォーマンスの練習
- ④ 日時 7月15日(金)18:30~20:00
 - 1 マスタートンの話し(マスタートンに家を持つ東道さんに現地の実情を聞いた)
 - 2 英会話(食事、買物など)
 - 3 パフォーマンスの練習
- ⑤ 日時 7月22日(金)18:30~20:00
 - 1 英会話(英語がわからないときに使うフレーズ)
 - 2 文化紹介のスピーチ練習
 - 3 パフォーマンスの練習
- ⑥ 日時 8月2日(火)13:00~15:30
 - 1 パフォーマンスの練習
 - 2 出発にあたり注意事項

日程表

	月日	都市名	日 程
1	8/11 (木)	廿日市市～成田	JR宮内串戸駅出発、広島駅、広島空港、羽田空港を経て成田へ 到着後、搭乗手続き・出国手続き後、NZへ出発 空路 オークランドへ【機内泊】
2	8/12 (金)	オークランド～ウェリントン	オークランド着 入国手続き・通関後、国内線乗り継ぎ ウェリントンへ ウェリントン見学(デパパ博物館、国会議事堂)
3	8/13 (土)	ウェリントン ～マスタートン	午前中ウェリントン散策 マスタートンへ(バスで移動) ホストファミリーと対面
4	8/14 (日)	マスタートン	ホストファミリーと自由行動
5	8/15 (月)	マスタートン	ソルウエー小学校訪問 市長表敬訪問 レイクビュースクール訪問 テ・クラ・カウパパマオリ専門学校訪問
6	8/16 (火)	マスタートン	セントマシュー女子校・ラスキール男子校訪問 住建NZ ワイララパ工場見学 ウールシェッド(羊毛刈り)見学
7	8/17 (水)	マスタートン	パウワワールド プカハ マウントブルース見学(自然公園) サヨナラパーティ(フッカーさん宅)～市長出席～
8	8/18 (木)	マスタートン～ウェリントン ～オークランド	マスタートン出発、ウェリントンへ ウェリントン空港から国内線にてオークランドへ
9	8/19 (金)	オークランド	自由研修 スカイタワーで夕食
10	8/20 (土)	オークランド～成田	オークランド空港 出国手続き後、帰国の途に 成田空港 入国審査手続き 品川駅、JR広島駅を経て
	8/21 (日)	～廿日市	JR宮内串戸駅着

全日程の概要（日記）

8月11日(木) 小田 レイジ

本日から待ちに待ったニュージーランド研修がスタートしました。始めはJR宮内串戸駅に集合し、市長の素敵な話を聞くことができました。話が終わったあと、研修員の中から代表として出発の決意を言ってくれました。少しばかり緊張はしているようでしたが、ハッキリと自分の決意を伝えていたので、良い発表だったと感じました。



そして次は電車に乗って広島駅に行って、そこからリムジンバスで広島空港へ行きました。空港では飛行機に乗る前に荷物検査が行われました。特にひっかかるものを持ってきたわけではないですが、もしひっかかったらどうしようという不安がつわり、少しばかり動揺しました。

国内線に乗ったあとは、リムジンバスで成田空港に行き、いよいよニュージーランド行きの便に乗りました。ニュージーランドにつくまで映画や音楽を座席に設置されている端末で楽しめましたが、10時間のフライトはさすがに疲れました。明日からは本格的に研修が始まるので、後悔のないよう新たな経験が無駄にせず、学べることはしっかり学んでいきます。

8月12日(金) 西田 幸一

今日も、移動が多かった。10時間のフライトの後、ようやくオークランドに着いたけど、そこから国内線に乗りついで、ウェリントンに到着した。ここからガイドさんの案内で、ウェリントンの観光をしました。国会議事堂、展望台、テパパ博物館に行きました。昼食もガイドさんの案内でホテルの中にあるレストランで大きなハンバーガーを食べました。大きさにはびっくりしたけど、とてもおいしかったです。



観光を終えた後ホテルに向かいました。ホテルでの夕食は、とてもおいしくて、多かったです。夕食の後、部屋に戻って、風呂に入って、気づいたら寝てました。明日は、ホストファミリーと合流します。自分から積極的にチャレンジしたいです。



8月13日(土) 桑原 希羽



今日は午前中、ウェリントンを見て回りました。とにかく寒くてマフラーと帽子の大切さがとても実感できました。ラグビーの銅像があったり、海でボートに乗っている人がいたり、日本ではあまり見かけないような様子がありました。建物がおしゃれだからアパートかな？と勘違いしてしまったりもしました。(実際は老人ホーム) 途中で見た路上ライブもすごかったです。

お昼はカフェのようなところで食べました。私が食べたのは、パイの中にとり肉、マッシュルーム、ベーコンが入ったものでした。すごくおいしかったけど、パイ生地がナイフで切りにくかったです…。

お昼を食べた後は、ウェリントンからマスタートンへ移動しました。山の写真を撮りたかったけど、寝てしまったので撮れませんでした。

マスタートンへ行く途中、機関車と戦時中の物が展示してあるフェザーストンという所に行きました。機関車についての映画を見ていて、英語がわからなかったなあ…と、ずっと思っていました。戦争についての展示室では、捕虜になった日本人が作ったもの、当時の服など様々な物がありました。手作りの麻雀セットにはとても驚きました。

この2つの施設を見て回った後は、待ちに待ったホームステイの家族にご対面です。私のホームステイ先の家は、お父さん、お母さん、双子のお兄さん、1つ年下の女の子でした。英語が理解できず、ずっと笑ってやりすごしました。(笑) 家に行く前には、公園、スーパーマーケットに行きました。公園ではたくさんのアヒルを見ました。

家に着いて、私がホームステイ中に使う部屋を見せてもらいました。2階は私が使っていていいということでした。2階にお風呂もトイレもあったので、とても快適にすごすことができました。

夜ご飯はハンバーグのようなものをトーストにのせて食べました。他にも野菜などを自分で選んでのせて食べました。とてもボリューム満ちてお腹がいっぱいでした。少し後にはデザートを食べました。果物を使ったスイーツと、はちみつの味がするアイスクリームが出てきました。甘くておいしいけど、本当にお腹がいっぱいになりました。(笑)

その後、Neveちゃんとボードゲームをして遊びました。日本でしたことのあるゲームだったので楽しくできました。その後、「疲れたので、寝ます。」と伝えたら、日本で言う湯たんぽを用意してくれました。家族みんなとても優しく、明日の休日も楽しみです。



8月14日(日) 櫻井 絵理

今日は海に行きました。瀬戸内海の波とは違い、波がとても荒かったです。

ホストファザーとユキさんとその友達のモーガンと私で長い坂道を登って行くと、海が一面見渡せる場所に着きました。潮風がとても強くて、坂道を登るのが大変だったけど、高い所から見る景色は、とても癒されました。

少し下の方に降りて、崖に行きました。崖に打ち上げられた波から霧が出て、そこから虹が見えました。とてもキレイでした。

そして次はもっと高いところで海を見ました。途中、山の中を登りました。モーガンが「どのくらいニュージーランドにいるの？」や「何のクラブに入っているの？」など、たくさん話しかけてきてくれて嬉しかったです。

モーガンは、まだ日本に一度も行ったことがないけど、日本が大好きで、特に日本のお菓子が好きらしく、日本から取り寄せているようです。私に三ツ矢サイダーのあめをくれました。

10分ぐらい歩くと、最初に見た景色よりももっとキレイな場所に着き、晴天の中で聞く潮風や波の音だったり、青く澄んだ海が見れて、心が落ち着きました。

お昼は、生まれて初めてフィッシュ&チップスを食べました。袋に包まれて出てくるとは思わなかったのが驚きました。



車の中や家に帰ってからも、ユキさんとモーガンと私でずっと喋りました。モーガンは日本のことをよく知っているの、日本についてとても話が盛り上がりました。

夕方になって、ユキさんとモーガンが通う学校に行きました。ニュージーランドでは高校のことをカレッジというそうです。

一番不安だったホストファミリーとの自由行動の日がとても楽しい1日になりました。



8月15日(月) 桑原 希羽

今日からマスタートンでの活動が始まりました。

1番初めは、ソルウェー小学校でした。歓迎の気持ちがとても嬉しかったです。ハカもあって小さい子たちにとっても圧倒されました。私たちはチューリップを歌いました。マオリのあいさつもしました。(鼻と鼻をくっつける。)文化の違いを感じました。

次にマスタートンの市長さんの所へ行きました。ジュースやクッキーを出してくれました。私が昨日あったことを伝えたら、理解してくれたらしく嬉しくなりました。日本からのおみやげも喜んでくれたらしく、楽しい時間をすごせました。



その次はレイクビュースクールに行きました。始めは紅茶を飲みながら少し話をしました。次は新しく出来た自転車で走るところを私たちにも使わせてくれました。サイクリングコースを作った理由は、マオリ族の糖尿病予防のためです。レイクビュースクールの58%がマオリ族で、若い頃からの運動習慣を身につけるためだそうです。その後、教室の写真を撮らせてもらいました。みんな優しく、感謝の気持ちでいっぱいです。



その次はテ・クラ・カウパパというマオリ族の学校でした。これまた歓迎がすごかったです。ここでもハカを見ました。クロワッサンにチーズ？とベリー系のジャムをぬったものとキウイ、洋なしを出してもらいました。洋なしがかたくて上手にかじれずに隣の男の子に笑われてしまいました。(笑)その後、歌やダンスを一緒にして本当に楽しかったです。最後はゴルフをしました。最初はボールにクラブが当たらず苦戦しました。でもだんだんと当たるようになりました。その後迎えにきてもらいました。Neveちゃんの歯医者にも行きました。

夜ごはんはカレーで、苦手な味のする葉っぱに苦しめられました。あと自分の大嫌いなトウモロコシも入っていて本当に苦戦しました…。今日のデザートは、だんろでマシュマロを焼いたものでした。すごく甘かったです。(笑)

お風呂に入った後、ボードゲームをしました。とても楽しく出来ました。明日はNeveちゃんの通うセントマシューズ女子校に行きます。楽しくすごせるように頑張ります！

8月16日(火) 米原 希

今日もまず、ソルウェー小学校に集まって、1日の予定を聞きました。そこから車でセントマシューズ女子校に行きました。

女子校では、じゅん子先生と数人の生徒が授業の様子を見せてくれて、私も美術の授業に参加しました。生徒たちは、動物の絵を描いていたのですが、その動物の骨の形まで調べていて、そこまで本格的なのかとおどろきました。私もガラスの絵を描いたのですが、生徒達の絵をみると、はずかしくて見せることができませんでした。(笑)



セントマシューの音楽室みたいなところで、私達はダンスをしました。私はうまくおどれないので、はずかしかかったけど、おどれる人たちがキレッキレにきめてくれたのでよかったです。セントマシューの子たちといっしょに「おどるポンポコリン」をおどりました。ふりつけがよく分からなかったけど、楽しかったです！！校舎もきれいで、大きくて、すてきな学校だと思いました。

その後、ラスキール男子校に行きました。そこでは、セントマシューの高学年の生徒もいっしょに勉強しているそうです。校内を、日本語を勉強している女の子2人が案内してくれました。学校はととても広くて、ラグビーコートや、大きなホール、小川などもありました。案内してくれた女の子たちが、一生懸命日本語で説明してくれたので、うれしかったです。

昼食は、ラスキール校の中庭みたいなところで食べました。私のランチには、パンや、リンゴ、バナナなどが入っていました。おいしかったです。

ラスキールに行った後は、ジューケン・ニュージーランド(JNL)の工場を見学しに行きました。「VISITOR」とかかれた服をきて、耳せんをして、工場を見ました。大きな木材が、薄くスライスされて加工されていく様子は、とてもすごかったです。私達が普段使っている木造製品のほとんどが、ここからきていると思うと、身の周りのものを見る目が変わりました。社員の人の説明によると、加工するときに出る水蒸気をエネルギーとして再利用しているらしく、また、そのときに出了た水で木を育てているらしいです。なんてすばらしい会社なんだ！！と思いました。

JNLでは、アフタヌーンティーもしました。時間があまりなかったのですが、そんなにゆっくりできませんでしたが、紅茶やコーヒーを飲みながら、カップケーキなどのお菓子を食べました。おいしかったです。

JNLに行ったあとは、ウールシェッドに行きました。おじさんが、実際に毛刈りを見せてくれて、時々羊が暴れるので、とても大変そうな仕事だと思いました。毛刈りを見終わると、おじいさんやおばあさんが、ウールを毛糸にしているところだったので、作業のようすを見せてもらいました。私もすこし体験したのですが、すぐに糸が切れてしまって、とても大変でした。そんな出来の悪い私にも、丁寧にやり方を教えてくれたおばあさんに感動しました。私が作った糸は、お土産としてくれました！

ウールシェッドにホストファミリーのアンバーちゃんが迎えに来てくれたので、一緒に図書室に行ったり、お土産屋さんに行ったりしました。



夜ごはんは、ポテトとトーストとパイの中にひき肉の入ったミートパイ？でした。とてもおいしかったです！！デザートにケーキみたいなものをすすめられましたがお腹がいっぱいだったので、ことわりしました。

お風呂に入った後は、アンバーちゃんと折り紙をしたり、音楽をきいたりして、すぐに寝ました。なので、この日記を書く時間が確保できず、次の日の朝、書きました。今日はキウイを見たり、サヨナラパーティーがあるので、楽しみです。

8月17日(水) 谷口 大斗

今日は、とても予定がつまっていました。

まず、パウワワールドで、おみやげを買いました。かなりの金額を使ってしまいました。

そのあと、マウントブルースに行き、昼ごはんを食べ、とてもでかいウナギを見ました。見たときは、とてもびっくりしました。日本にはぜったい、いません。それにエサをあげることができて、とてもうれしかったです。



そのあと、ニュージーランドでしか見られない「キウイ」を見に行きました。キウイの部屋は、キウイは夜行性で夜しか行動しないので、特殊な光を出し、昼でも行動ができるようにしてあって、すごいなあと思いました。キウイは、ふつうのキウイと白いキウイがいました。白いキウイは、とてもかわいかったです。

そのあと、カカという鳥のエサやりを見に行きました。カカは、とてもイタズラ好きで、自分の頭をつついてきました。

そして、夜はサヨナラパーティーがありました。とても盛り上がりまして楽しかったし、ごはんもおいしかったです。帰りたくないと思いました。

8月18日(木) 櫻井 絵理

今日でホストファミリーとお別れしました。たった5日間だったけど、とてもたくさんの思い出ができました。ホストマザーが、ヒスイのネックレスをプレゼントしてくれました。

昨夜は、ユキさんと夜中の3時前までずっと喋っていたため、起きるのがつらかったです。

お別れの時、ホストマザーにメッセージカードを渡したら、とても喜んでくれて嬉しかったです。



それからウェリントン空港からオークランドに行きました。

オークランドはニュージーランド北島北部にあるニュージーランド最大の都市だそうです。

バスからシンボルのスカイタワーが見えました。

夜はホテルで、みんなで人狼ゲームをしました。人狼ゲームは心理戦なので、誰が人狼なのかを見抜くのが面白かったです。

とうとうニュージーランド研修も残すところあと2日なので、悔いのないように楽しんでいきたいです！



8月19日(金) 横内 遥香



朝起きて、ホテルのビュッフェで朝ご飯を食べました。最初の日泊まったホテルにもあったけど、トマト味の豆がやわらかくておいしかったです。

ご飯を食べた後は、1回だけ人狼ゲームができたので楽しかったです。

ホテルを出て、まず最初に歩いて港まで行って、船に乗りました。外に出たら風が強くて寒かったけど、海がとてもきれいでした。

船を降りたら少し坂を上って海の向こうまで見渡せる丘まで行きました。スカイタワーやいろいろな建物がすごく小さく見えました。空と海が真っ青で、芝生のギリギリ落ちない所に座ったら、とても気持ち良かったです。

そこから、ご飯を食べるためにカフェまで行きました。歩きながらSNOWで自撮りをしたり、しゃべったりして、とても楽しかったし、最初では考えられない程みんなと仲良くなれたな、と改めて実感して、すごくうれしかったです。カフェではパイを食べておいしかったです。食べ終わっても、またSNOWで自撮りをして遊びました。

その後、スーパーマーケットに行ってお土産のお菓子を買いました。買ったかったものが買えたのでうれしかったです。

帰りの船は1階に座ったので海が近く見えました。

その後、お土産物屋さんに行って、キーホルダーとコースターを買いました。日本人の店員さんや、日本語案内もたくさんあって買い物しやすかったです。

一旦ホテルに帰って、その後スカイタワーに行きました。エレベーターで上がるのは、早くてあつという間でした。下から見ている時はわからなかったけど、展望レストランがゆっくり回転していました。ご飯を食べながらいろいろな景色を見ることができてきれいだったけど、少し回転している感じが落ち着かなかったです。ご飯は、私はチキンを選んで、まわりの味噌をつけて食べたので、少し和風でおいしかったです。デザートはドーム状の砂糖菓子がフワフワできれいだったけど、甘すぎでした。(笑)



ホテルにもどって、急いでシャワーをあびて、みんなで人狼ゲームをしました。普段大人しい人も積極的にしゃべって、とても楽しかったです。

1日中みんなと過ごせて、とても楽しい1日でした。

8月20日(土) 谷口 大斗

朝、なんと5時おきで、とてもつらかったです。そこからすぐロビーにおりて出発しました。

そしてバスに乗って、まだ暗い道を走り、空港に行きました。そして、そこで朝ごはんを食べて、8時15分くらいに飛行機に乗って、快適な空の旅を楽しみました。

そのときは、ちょうど空が晴れていたなので、とても景色がきれいでした。そして僕は寝ていました。気づくと午後2時でした。CAさんが、昼食を持ってきてくれました。とてもおいしかったです。



そこから映画を2本ほど見て、やっと日本に着きました。日本に着いて飛行機をおりた時のにおいと暑さで、友だちや家族のことを思い出し、はやく会いたいなと思いました。それと同時にホストファミリーの顔が頭をよぎり、とても悲しくなりました。いろいろな思い出がよみがえってきました。

そして、そこから快速電車に乗り、また乗りかえて、新幹線に乗りました。僕は爆睡していました。気づいたら、着いていました。その時間は、なんと夜中の12時、びっくりです。

そして、とうとう最後の電車にのり、JR宮内串戸駅でメンバーと別れ、僕とレイジと希羽が大野浦駅で別れました。あつという間でした。10日間が1日のようでした。でもその1日には、たくさんの思い出がつまっていました。



参加者感想文

中学2年 米原 希

「ニュージーランド研修旅行感想文」

私は、今回の研修旅行で、日頃体験できないような、貴重な経験を、たくさんさせていただきました。行く前は、とても不安で、英語もあまり話せないで、ちゃんと会話できるかどうか、心配でした。しかし、実際に行ってみると、いろいろなことを体験でき、楽しく、充実したものとなりました。

ニュージーランドの8月は、日本とは違い、冬で涼しい気候でした。思っていたよりも寒くなくて、過ごしやすい気候だったと思います。



そんなニュージーランドで、一番印象に残っていることは、やはり5日間のホームステイです。はじめは、知らない人の家で過ごすことに、緊張していましたが、ホストファミリーは、みんなとても親切で、私のことを温かく迎えてくれました。私が、英語を理解できなくて、話していることが分からないときも、ホストファミリーは、ゆっくり話しながら、丁寧に説明してくれました。私も、ホストファミリーと、たくさん話せたので、うれしかったです。

ホストファミリーとは、サッカーの試合を見にいたり、農場を一緒にまわったりしました。農場には、数えきれないほどの、羊や牛がいて、とても可愛かったです。

ホストファミリーとの5日間は、あっという間に過ぎ、別れる最後の日は、すごく寂しかったです。この家族に会えて、ほんとによかったと思います。英語がもっと話せるようになったら、また会いに行きたいです。



ホームステイの他にも、ニュージーランドの学校を訪問したり、キウイやカカ、羊の毛刈りを見たりしました。

行く前は、長い 10 日間だと思っていたけど、今振り返ると、あっという間の 10 日間でした。ニュージーランドで経験したことは、一生の思い出です。この研修旅行で、外国への関心が高まったので、これから、もっと英語を勉強して、機会があれば、また、外国に行ってみたいです。

「ニュージーランド研修で学んだこと」

ニュージーランド研修に参加した理由

僕が今回行われたニュージーランド研修に参加した理由は、一度実際に英語が使われる環境に行ってみたかったからです。僕はまだ中学生なので、今まで一度も英語を使う機会がなかったのであまり英語を身近に感じられず、いつも学校の授業で勉強している英語は、実際にアメリカなどの公用語に英語を使っている国で本当に使われているのか少し疑問に思っていました。そして、このニュージーランド研修の参加者を学校で募集していたので、英語が公用語のニュージーランドではどのように英語を使っているのか身をもって知ってみようと思い、参加してみました

英語で最も必要なのは話そうとすること

オークランド空港に到着したときに、空港にはたくさんのお店があったので、好きなところで昼食を取るようになりました。それぞれ行きたいお店に行き、僕は喉が渴いていたのでまずは飲み物を買うことにしました。結果を言えば無事、コーラを買うことができたのですが、英語で注文することなんて生まれて初めてのことで、凄く緊張してしまい、半ば強引な英語で注文していました。正直、コーラ一つもまともに注文できないのに、ここでこれから頑張っていけるのか自信がかなりなくなりました。

ですが、それからニュージーランドの日々をすごして僕の不安はなくなり、自信も取り戻せました。なぜかという、ホームステイ先の人や訪問した学校の人々は僕たちでも分かる簡単な英語で話してくれたのです。それで僕もやっとな、会話がだんだんと増えていくようになり、自分から会話をしかけるようにもなりました。このニュージーランド研修の体験で、最も大切だったのは英語を完璧に喋ろうとすることではなく、スムーズにはならなくても話そうとすることこそが大切だと分かりました。

実際に、ホストファミリーと会話をしたとき、最初は授業で出てくるような文を言ってみたのですが、僕の不慣れた英語はあまり伝わっていないようで、自分の言っていることが間違っているのか不安にもなりました。何回か試行錯誤した結果、中学一年生で習うような簡単な英語で話してみました。簡単な英語だと自然と自分の言っていることに自信を持てるようになり、その自信からか、ホストファミリーもだんだんと僕の言っていることを理解してくれるようになりました。そして次第に英語を喋ることが楽しく感じるようになりました。



ニュージーランドの人々は想像以上に親しみやすい

僕が今回のニュージーランド研修で一番強く感じたことは、ニュージーランドの人々はとても心優

しい人ばかりだということです。ホームスティのときも英語が不慣れな僕にゆっくり簡単な英語で会話してくれたり、僕がホームスティした街のスタートンには全くゴミが落ちていなくて、誰もポイ捨てをしないところが心が優しいことの表れの一つだと思いました。



テ・パパ博物館

そして僕が一番心の優しさを感じたことは、ニュージーランドにはたくさんの人種の人がありますが、全く差別がなかったことです。ニュージーランドに行く前、ニュージーランドについて調べていてマオリ族のことに知りました。マオリ族の文化はかなり独特で、今もマオリ族の文化を受け継いでいる人もたくさんいると知って、差別とかはないのだろうかと疑問に思っていたけれど、ニュージーランド研修を通してニュージーランドには差別なんて全くなく、むしろマオリ族の文化を象徴していることに気づきました。

実際、ウェリントンのテ・パパ博物館ではマオリ族の文化が数多く展示されていて、たくさんの方がそれらを見に来ていました。他にも、マオリ族の人が通っているテ・クラ・カウパパ学校に訪問しました。ここではマオリ族特有の歌を披露してくれたり、会話もしてくれました。会話を交えて思ったのが、どの人も僕たちにとっても親しく接してくれて、マオリ族というより本当に僕たちと同じ人間であるということに気づかされました。たとえ赤の他人や、文化の違う人でも関係なく接してくれるのが、やはりニュージーランドの人々は心優しいんだと分かりました。



テ・クラ・カウパパ学校

最後に

今回ニュージーランド研修を終えて、僕はやることとやってみたいことがあります。まずやることの一つが、僕が通っている学校の学園祭でニュージーランド研修の発表会で今回の出来事を説明することです。これは僕自身楽しみにしていることで、なぜかという、今回学んだことをどう説明したらみんながニュージーランドに興味を持って貰えるか考えるのは、ニュージーランドについてまた振り返るきっかけにもなるので、みんなの為だけでなく自分の為にもなります。

やること二つ目は、今度10月の23日に行われる中学校英語暗唱大会に出場することです。これは学校の先生が呼び掛けをされていて、最初は出場するか迷っていたけれども、今回の研修で英語への関心が深まったので、もっと英語を勉強して身につけていきたいと思ったので、出場することにしました。10月23日に行われるのは大竹市と廿日市市の大会でこの大会の予選を通過したら、今度は12月10日にある広島県での英語暗唱大会に出場できることになるので、今からよく練習して行きます。そして僕がやってみたいことが、今よりもう少し大きくなり、勉強も積み重ねて国際コミュニケーション英語能力テスト「TOEIC」に挑戦することです。

先ほども言ったとおり僕は今回の研修で今までより英語への関心はるかに深まったので、より自分の英語能力を上げて英語の会話をスムーズにできるようになれるようになるためにも、この「TOEIC」のテストに合格できるようになることを僕の新しい目標として頑張っていきます。

「ニュージーランド研修旅行感想文」

僕がニュージーランドでまず感じたことは、すごく人種が多く、いろんな国の方々がおられました。そして、会う人、通りすぎる人が、とてもフレンドリーで、話しかけてくれました。

そこからマスタートンに向かい、トラックバスで走っていると、マスタートンに入った瞬間に、すごく景色が変わり、一気に田舎になりました。というのも、マスタートンは、辺り一面が緑で、当たり前のようにそこら辺に牛や羊、野生のニワトリもいました。



そして、マスタートンに着いて、ホストファミリーと会いました。初めはこれ以上ないくらいに緊張しましたが、ホストファミリーは、その会った日の夜に、いきなりラグビーの試合を見に連れて行ってくれました。マスタートンのラグビー、サッカーグラウンドは、ものすごくきれいに整備されていました。そして、ラグビー選手がとてもでかかったです。さすがニュージーランドです。

そして、僕は今までで、一番驚いたのは、マスタートンの広い池です。学校の先生から、マスタートンのレイクビュースクールには、とても広い池があるのですよ、だからレイクビュースクールなのですよ、と言ってきて、見るのが楽しみでしたけど、まさかあんなに広いとは思いませんでした。大野学園で言えば、学校3つくらいの広さでした。そして、多くの山が、まるで富士山のようにきれいで、山の頂上には大量の雪が積もり、とてもきれいでした。

ホストファミリーが作ってくれたお弁当はとてもおいしく、弁当を食べて思ったことは、サラダにマスカットが入っていることが、とてもびっくりしました。でも、マスカットはサラダにとっても合っていて美味しかったです。



ホストファミリーとの最後の夜の、お別れパーティーはとても楽しく、マスタートンの市長さんに、マスタートンの人としての賞状をもらい、マスタートンの人に仲間入りできて良かったです。ホストファミリーと分かれるのが本当につらかったけど、家に帰った今でも、ホストファミリーと話しているので楽しいです。10日間で、とてもいい思い出ができました。



中学3年 桑原 希羽

「ニュージーランド研修旅行感想文」

私が今回の研修旅行に参加したのは、英語についてもっと学びたかったのと、ニュージーランドの文化を知りたかったからです。

大野中から私を含めて3人応募したので、誰が行けるのかなと思っていましたが、意外にも3人も行けることになったので安心しました。出発前の打ち合せの時に、初めて大野以外の人と会いました。先輩が多かったので緊張しましたが、ニュージーランドで仲良くなれました。

出発の日、とてもわくわくとしていました。広島からニュージーランドまで約21時間という長い移動でしたが、ニュージーランドに着いた時は感動しました。



ニュージーランドで良い経験になったことは2つあります。一つめは、ホームステイです。全てを英語で話さなくてはいけなくて、単語だけでしか話せない私でしたが、ホストファミリーの人たちは真剣に聞いてくれ理解してもらえました。ホストファミリーと過ごした日々は、私にとって大切な思い出となりました。優しくて短い間でしたが、本当の家族のようにしてくれたので、お別れの時は、家族全員がハグをしてくれて、さびしくなって涙が出そうになりました。今でもメールのやり取りをしているので、交流を続けたいです！

二つめは学校訪問です。5つの学校を訪問しましたが、どの学校の人たちも優しく、私達と同じなんだなと思いました。ホストファミリーにも学校で会えたので、家で見るとは全く違った一面を見ることができました。ニュージーランドの学校について知ることが楽しく、日本と違うところがあってとても面白かったです。

今回のメンバーとの思い出が一番残っているのは、ニュージーランド最終日のオークランドで、昼間の自由行動では、フェリーからの景色が一番印象に残りました。潮風が気持ちよく、本当にきれいでした。



夜にはスカイタワーで夕食を食べました。すごく立派なレストランでご飯もおいしく食べ、楽しく過ごせました。寝る前には子どもたちでゲームをしました。旅行の最後の思い出作りはとても心に残りました。



今回の研修旅行で私の将来の夢も広がりました。留学したいと思えた楽しく学べた経験でした。

これからも英検などの英語に関わっていくことを頑張ろうと思います。

「ニュージーランド研修報告書」

私はこのニュージーランド研修でニュージーランドの様々な文化や生活に触れることができました。

私はこの研修で初めて海外に行きました。そこで日本と違う所をたくさん見つけました。例えば、街並みです。日本では横型の信号機で建物は木造が多いですが、ニュージーランドでは縦型の信号機がほとんどで、建物はコンクリートやレンガで造られているのが多かったです。



ニュージーランドに滞在していた時期は日本の3月頃の気候でした。日本は8月でとても暑かったのに、オークランドの空港に着いた途端に冷たい風が吹いてきて涼しかったです。ああ、ニュージーランドに着いたんだな、と肌で感じました。

ニュージーランドに着いて最初の食事がたくさんの牛肉が入った大きなハンバーガーでした。大きすぎて全部は食べられませんでした。日本ではこんなに大きなハンバーガーを見ることがないので、外国らしいなと思いました。

そして、何とんでもこの研修の最大のイベントが5日間のホームステイです。最初は、ホストファミリーと馴染めるか不安でしたが、Castle Point という所に連れて行ってくれたり、たくさん話しかけてくれたおかげで馴染むことができました。そして、私がホームステイをした家族の中に、もう1人留学生の日本人の17歳のホストシスターいて、ニュージーランドのことを教えてくれたり、一緒に

トランプをしました。私は一人っ子なので、お姉ちゃんができるみたいで嬉しかったです。また、ホストファザーやマザーと話していて、分からない言葉がたくさん出てきたり、自分が話していることが通じなかったりと言葉の壁を感じましたが、分からない言葉は簡単な英語に直してくれたり、自分もジェスチャーや他の表現で何とか伝えることができました。



たった5日間という短い期間でしたが、たくさんを知ることができた5日間でした。私はこの家族に出会えて本当に良かったです。

今回の研修旅行を通して私は「積極的に行動する大切さ」を学びました。受け身の姿勢ではなく、自分から話しかけたりと自ら動いていくことで、世界は広がっていくのだということを感じました。

困った時に助けてくれたホストファミリーやプログラムのメンバー、そしてこのニュージーランド研修に行かせてくれた両親に心から感謝したいです。

この研修で得た「積極性」で、これからもいろんなことに自信を持ってチャレンジしてみたいです！

「ニュージーランド研修報告書」

私が今回の研修旅行に参加した理由は、中学校に入って英語を本格的に勉強し始めた時から、ホームステイに行ってみたいと思っていたからです。最初は純粋に英語が好きで、日本の文化を外国の人に伝え、外国の文化を体験したい、という考えでした。しかし英語が上手に話せないし、人見知りもするので、ホームステイについて考え方が消極的になりつつありました。そんな時、小学校からの仲良しである絵理ちゃんが「一緒に申し込まん？」と誘ってくれ、意外にも両親が「良い機会だから」と言ってくれ、参加できることになりました。

最初はホームステイに参加する人なんて英語ペラペラで真面目で大人しい子ばかりだと思っていた（実際出発前くらいまで思っていました笑）不安もたくさんありましたが、長い間みんなと過ごしていく内にどんどん仲良くなれて、先輩、後輩の壁を乗り越える、どこかむしろもっと先輩を大切にしてほしいくらいに関係になれ（笑）とてもうれしかったです。

ホームステイでは、最初ホストマザーが「自分の家だと思って、リラックスして！」みたいなことを言ってくれて、少しリラックスすることができました。ホストファミリーの家は農場で大きな牛やかわいい子羊、たくさんのきれいな羽根のアヒルやニワトリと触れ合うことができ、とても貴重な経験になりました。休日は海に野生のアシカを見に連れて行ってくれ、道路の脇に普通に大きいアシカが寝ていてびっくりしました。海もとてもきれいでした。

食事は日本の食事よりボリュームがあり、夜ご飯は炭水化物をとらないスタイルにびっくりしましたが、お肉がとても美味しくて、いつもよりたくさん食べました。食事の度に箸を出してくれたり、ライスの上に「てりやき」をのせた料理を出してくれるなどの気遣いがとても嬉しかったです。

現地の学校訪問をした時は、どこの学校でも歓迎してくれて嬉しかったです。マオリ式のあいさつをした時、鼻を合わせるために顔を近づけるのは恥ずかしかったけど、おでこをくっつけ考えを共用し、鼻をつける時に同じ空気を吸っていることを表すという意味を知って、とてもステキだなと思いました。マオリの学校でマオリ語の歌を教えてもらったのも、とても嬉しかったです。





そして家では、農場の手伝いをしたり、食後に映画を観たり、Juliet に日本のマンガをスマホで見せながら英語で説明したりしました。Juliet は日本のことが好きで、ホームステイで日本に来たこともあり、その時の写真を見せてくれたりもしました。寿司のネタが書いてあったり、漢字がプリントアウトしてある靴下を履いていて、面白かったです。最後の夜は、ホストファザーと一緒に折り紙をしました。日本の文化を伝えて、説明を理解してくれた時はすごく嬉しかったです。

最終日の朝は、ギリギリまで家族と写真を撮り、本当に最後なんだなと思うととてもさみしかったです。「家を出る時」「集合場所までの景色」一瞬一瞬を目に焼き付けようと思いました。道の途中で野生のウサギを見ることができたので感動しました。集合場所に着いて全員で写真を撮って、バスに乗ったらホストマザーと Juliet がバスの窓から私を捜してくれているのがわかり、分れたくないなと思いました。

今回の研修旅行で、私はあまりちゃんとした英語をたくさん話せませんでした。聞取ることも、多分ほとんどできなかつたと思います。だけどホストファミリーの気持ちは充分伝わったし、何度も「Do you understand?」と確認してくれたり、ゆっくり話してくれたりして大体のことは理解することができ、ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。

また、みんなをまとめてくれた倉田さん、英語を教えてくれたり通訳をしてくれたためぐさん、仲良くしてくれたみんなにもとても感謝しています。このメンバーで行けて本当に良かったです。パフォーマンスに関しても、ワガママ言って、みんなに迷惑かけたけど、みんなが協力してくれてとても楽しく踊ることができました。

最後に、この研修旅行にあたる費用を出してくれ、応援してくれた両親に、本当に感謝します。最高の思い出ができました。ありがとうございました。



「ニュージーランド研修報告書」

今回の研修旅行でいろいろなことを体験し、学ぶことができました。

そして、そのどれもが初めてのことばかりでした。行く前は長い10日間だと思っていました。でも、あっという間にその10日間は過ぎてしまいました。

最初は不安や緊張で胸がいっぱいでしたが、それもすぐに消え、楽しむことができました。

ニュージーランドでは、日本と違う町並みや、文化に胸が躍りました。見るもの全てが新しく、空気がきれいなことも相まって、何もかもが美しく見えました。国会議事堂や学校などさまざまな場所に行き、たくさんニュージーランドの文化に触れることができました。



この研修旅行で一番印象に残っていることは、今回の研修旅行の目的である5日間のホームステイです。初めは、言葉が通じるのか、本場の英語を聞き取れるのか不安でした。予想通り通じなかったり、聞き取れなかったりすることがありました。しかし、ホストファミリーの方はとても優しく、ゆっくり話してくれたり、分かりやすい英語に変えてなど、たくさん工夫して話そうとしてくれました。

やはり言葉の壁はありました。でも、ジェスチャーを交えながら片言でもいいから自ら積極的に話しかけることが大切だということを学びました。

最初にも言ったとおりあっという間でした。今回体験できたことはこの研修旅行でしか体験できないことばかりでした。僕は、今回の研修旅行でもっと英語を勉強して、また海外に行きたいと思いました。

この研修旅行を支えてくださった倉田さん、メグさん、そして準備や協力をしてくれた家族に感謝したいと思います。ありがとうございました。

引率者兼通訳
廿日市市職員
佐藤 萌



マスタートンの景色

「ニュージーランドで経験したこと全部が本当にいい思い出！」、「たくさんの人に出会えて、仲良くなったことが一番よかった。」、「もっとマスタートンにいたかった！」平成28年度ニュージーランド姉妹都市研修旅行を終えた参加者たちの言葉です。10日間の日程を大きなトラブルもなく無事に遂行することができたこと、5日間のホームステイの期間が子供たちにとって充実したものであったと確信できたことに通訳兼引率者として大きなやりがいを感じた貴重な経験になりました。ほとんどの参加者の子供たちにとって空港や飛行機、そして日本ではない国を訪れるということが初めてで、しかも学校も学年のばらばらで集まったメンバーでした。最初は不安もあり、お互いよそよそしく静かだったグループが日を追うごとにメンバー同士全員がとても仲良くなり、笑顔でニュージーランドの時間を満喫している姿に変わっていったのがとても印象的でした。

今回、ニュージーランドの姉妹都市研修旅行の通訳兼引率者に決まったとき、自分の英語力や海外で長く生活をした経験が廿日市市の国際交流のために役立てること、同時に引率という普段の市役所での事務業務とはまるで異なる新しいことに挑戦できることをとても嬉しく思いました。子供たちを連れて通訳兼研修旅行の引率業務に携わることは全く初めてのことで、最初は緊張しましたが倉田さんの子供たちと接する中でとてもポジティブな姿勢を拝見させていただきながら、事前研修を重ねるうちに参加者たちと早く打ち解けることができました。中高生の参加者たちにとって実りの多い研修旅行にするためにどのようなサポートができるかを考えた時に、コミュニケーションのツールとして英語を話すことの楽しさをわかりやすく伝えてあげられるように努めました。研修旅行中に参加者たちから英語表現などに関して気軽に質問してもらえ身近なお姉ちゃん的存在でありたいと思い、事前研修時から参加者たちに積極的に話しかけたり、マスタートンの訪問先で披露するために参加者のハルカさんが中心となって考えたダンスパフォーマンスと一緒に練習したりなど参加者たちとの距離を縮めるように心がけました。実際ホームステイ中に、「〇〇の時は英語で何て言えばいいですか？」や「ホストファミリーの家で沈黙が続いたらどうすればいいですか？」などアドバイスを求められることが多くあり、頼りにして貰うことができました。英語は実践で身に着くものなので、子供たちにとって今回のホームステイの中で話した英語のフレーズがかけがえのない思い出と共に頭に記憶されていればとても幸いに思います。

今回この研修旅行に職員として参加する上で現地に行って実際に自分の眼で見て感じて見たいと思う事が大きく二つありました。姉妹都市との国際交流を促進することにどんな意義があるのか、また姉妹都市から見た廿日市市はどんな存在であるのかを確かめてみたいということです。私がマスタートンに着いてとても印象的だったことは、出会う人みんながすごく気さくで親切だったことです。滞在期間中に訪問した先々でとても温かい歓迎を受け、参加者たちが楽しくプログラムに参加できる環境がありました。長年この研修旅行を請け負っている現地エージェントで元教師のリチャード・エリスさん(2日間、倉田さんと私のホームステイも受け入れてくださいました。心のこもったおもてなし、本当に嬉しかったです！)が研修プログラムを組んでくれており、5つの学校訪問やJNL(住建二

ュージーランド)の見学、そして市長の表敬訪問などマスタートンの人々との交流を通して、ニュージーランドの文化や生活そしてマスタートンと廿日市市とのつながりを学ぶ内容になっていました。中でも参加者たちが生き生きとして見えたのは、学校訪問で現地の生徒たちと交流をしている時でした。マオリ系の生徒が通うテ・クラ・カウパパマオリ専門学校を訪問した時に、マオリの歓迎の儀式や鼻と鼻をくっつけるホンギという挨拶で迎え入れてもらい、迫力のあるハカやとてもきれいなハーモニーでマオリ語の歌を披露してもらった時に今まで見たことのない素晴らしいものに出会ったことに皆がとても感動をしていました。



テクラカウパパでの交流

その後一緒にお茶をしながら英語で将来何になりたいかをお互い話したり、マオリ語の歌を教えてもらいながら歌ったり、一緒に写真を撮ったりと短い時間の中での交流を楽しみ、お別れをする時はすごく名残惜しそうにお互い最後まで大きく手を振っていました。またマスタートンで日本語の教師をされているジュンコ・ブレースフィールド先生が計画してくださった勤務先であるセントマシューカレッジとラスキールカレッジの訪問では、今年廿日市市で行われたホームステイプログラムに参加したマスタートンの生徒たちや、二年前の同じプログラムに参加した生徒たちが快く学校案内などをしてくれました。こちらでも、参加者の子たちが英語と日本語を織り交ぜながら、生徒達と一生懸命コミュニケーションをとっている姿が印象的でした。そしてセントマシューカレッジの生徒たちが4か月ぶりの倉田さんとの再会を喜んでいる姿が微笑ましかったです。



お世話になったリチャードさんと。

Thank you so much for everything,

Richard !

このような学校訪問を通して感じたことは、マスタートンの生徒たちも二年に一回の廿日市市からの訪問を心待ちにしていたのだということです。廿日市市や日本がどんな場所なのか知りたい、日本語を教えてもらいたいなど現地の生徒の興味は様々ですが、このような機会は姉妹都市としての交流があるからこそ可能なことであって、友好的な姉妹都市の関係や廿日市市の知名度向上に繋がってくるのだと感じました。また廿日市市でのホームステイに参加したセントマシューの生徒の中には、今回のホストファミリーの受け入れをしてくれた子も何名かいて、地道なところからですが姉妹都市間の人との出会いや繋がりができていくことで、グローバルな時代に異国間の相互理解を深めるきっかけになる貴重な経験になるのだと思いました。廿日市市のニュージーランド国内の知名度に関してリチャードさんに聞いてみたところ、巖島神社の鳥居の写真を見たことはあっても、日本に興味がない限りそれが廿日市という場所にあると知っている人は少ないし、けん玉もすごく有名というわけではないのが正直なところだと言っていました。一方で廿日市市を訪れたセントマシューの子たちは、廿日市は宮島という美しい場所があって人も温かくて、また絶対訪れたい！と力強く言っていました。今後もより多くの子どもたちがこのような研修旅行に参加できるように継続していくことが大切だと思いました。



マスタートン市役所

最後になりましたが、今回の研修旅行が参加者たちのたくさんの素晴らしい思い出と共に無事に終わることができたのは、長年この姉妹都市の交流を築いて下さった両市の関係者の皆様、そしてより良い研修旅行になるよう倉田さんをはじめ、現地でご尽力いただいたジュンコ先生、リチャードさん、マスタートン市で国際交流の促進にあたるジョナサン・フッカーさんと廿日市市との姉妹都市関係を大切にしてくれているリン・パターソン市長のおかげです。お世話になった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

このような姉妹都市との友好関係を私はとても誇りに思います。

引率者

廿日市市国際交流協会

倉田 耕三

「ニュージーランド海外研修旅行を終えて」

今回、初めて研修旅行の引率となり、姉妹都市のスタートンを7人の参加者と引率者2人の計9人で訪れました。

参加者は、中学2年～高校2年、男子3人、女子4人と、学年も学校も違っていました。最初はお互いぎこちなかったメンバーも、事前学習の初回から参加者の一人が「ラインのグループを作って、お互い情報を共有しよ！」と提案し、あっという間にグループができ、連絡が非常にスムーズになりました。

また、高校生から「学年は違うけど、敬語はやめよう。」との提案もあり、名前で呼び合うようになり少しずつ打ち解けることができました。このように、こちらから言わなくても、参加者同士が雰囲気の良いよう積極的に動いてくれたのでとても助かりました。

特に中学生にとっては、初めて出会った高校生に緊張感もあった中で、このような提案はすごく気が楽になったのではないのでしょうか。

やはり、私から言うよりは、自分たちでルールを作ったことが、押し付けがましくなく一体感が芽生えたと思います。

こうして、6月下旬から1ヶ月以上にわたり6回の事前学習会を経て、回を重ねるたびに仲良くなっている、出発に備えることができました。



この研修旅行は隔年で実施しており、廿日市市とスタートンの生徒が相互に交流しています。今年の4月には、スタートンからセントマシュー女子校の14人が廿日市市を訪れ、4泊5日の日程でホームステイしながら、文化体験や宮島観光を楽しみました。

今回、セントマシュー女子校を訪問した際には、同校で日本語教師をしている純子先生が案内してくれました。4月に来た生徒たちが顔見知りになった私を見つけるなり、授業中にもかかわらず立ち上がって迎えてくれました。

校内を案内してくれた生徒や一緒にダンスを踊った生徒の中にも廿日市市に来た生徒がたくさんいて、少し話しをすることもできました。

また、廿日市市を訪れた生徒の家にホームステイした参加者が2人いて、宮島や日本のことについて話をしたそうです。今回のホームステイ先は、ほとんどがセントマシューの生徒のお宅で、純子先生のお世話によるものです。

今回、初めてスタートンを訪れて、純子先生の廿日市市への思い入れをすごく感じました。



というのも、ホームステイ先を含め、セントマシューでのきめ細やかなプログラムなど、私たちの研修旅行ができるだけ充実したものとなるよう配慮してくれているのが随所に感じられたからです。

Lyn Patterson 市長への表敬訪問では、とても気さくな方で、私たちを温かく迎えてくれました。市庁舎は、耐震構造になっていないため使用できなくなっており、現在は元銀行の建物を仮庁舎として使用していました。

手狭な仮庁舎の中で、車座になって私たちをもてなしてくださり、参加者の話を聞いていただき、サヨナラパーティの時にはマスタートンの名誉市民証を一人ずつ手渡してくださいました。

マスタートンの印象は、人々がゆったりと暮らしており、街中では自動車もスピードを出さず、信号機も見かけることはありませんでした。とても住みやすい街だと思いました。



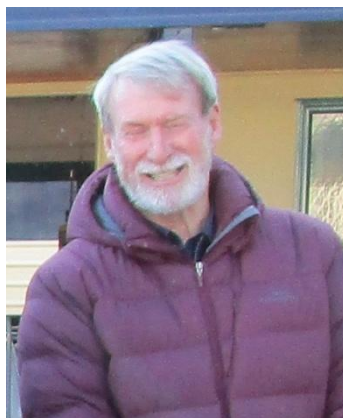
今回の研修旅行で、参加者はこの10日間ですいぶん成長したなと思います。英会話に関するだけでなく、ホストファミリーを含めた他人への気遣い、団体で行動することのルール作りなど、いろいろな面での成長を感じることができました。今回の大きな経験が、彼らの今後にどのような変化をもたらすのか、とても楽しみです。参加者たちとは、とりあえず5年後に会おう！と話しています。

最後に、大切な子どもさんを10日間も預けてくださり、また快く送り出してくださいました保護者の皆さんに心から感謝いたします。

姉妹都市マスタートンでお世話になった方々



Lyn Patterson (Mayor)



Jonathan Hooker (Councillor)



TOWN HALL (庁舎)



Kiri Gill (Principal)



Junko Bracefield
(St Matthew's Collegiate School)



Richard Ellis

姉妹都市マスタートン・ニュージーランド研修旅行2016に行ってきます！

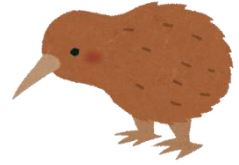
8月11日(木)から10日間、廿日市市からニュージーランドに7人の学生が研修旅行に行きます。13回目となる今回の研修旅行では、市内の中学生4人、高校生3人が参加します。5回の事前学習会で準備を重ね、本番に向けて頑張っています。今月号では、参加者の出発前の一言メッセージと、滞在先や日程などを紹介します。みんな、現地でのホームステイや学校訪問を通じての交流を楽しみにしています。

海外に行くことも、ホームステイするのも初めての経験で、とても楽しみで待ち遠しいです！

(M.Kさん)

私は人見知りや緊張が激しく、初めて会った人と話すのが苦手なので、ニュージーランドでは、積極的に話して、ホームステイ先の家族と仲良くしたいです。

(H.Yさん)



このような機会は滅多にないので、現地の人との交流で今まで知らなかったことをたくさん学び、良い経験にしています。(R.Oさん)

現地で発表するダンスの練習 頑張っています！



僕は、中学三年生で受験を控えているので、勉強しないとイケません。なので、本場の英語を学び、しっかり楽しんで帰ろうと思います。(H.Tさん)

私は、ホストファミリーや、地元の人々との関わりを楽しみにしています。(N.Yさん)

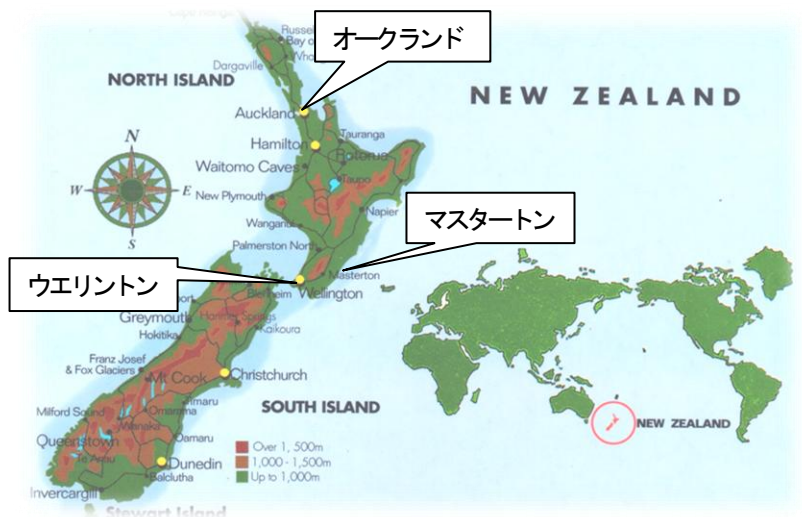


今回の研修で、英語に少しでも慣れるように積極的に英語を使って、色々なことにチャレンジしたいと思っています。

(K.Nさん)

初めて海外に行くので、うまく言葉が通じるか不安ですが、何事も楽しみと考えるこの10日間を頑張りたいです！そして、ヒツジの毛刈りなど NZ でしかできない体験をしてみたいです。(E.Sさん)

- 8月11日(木) JR 宮内串戸駅を出発し成田空港からオークランドへ
- 8月12日(金) ウェリントン到着後、市内観光
- 8月13日(土) ウェリントンからマスタートンに移動。ホストファミリーと対面し、現地で日常生活を体験
- 8月18日(木) 午前、マスタートンを発ちオークランドへ
- 8月19日(金) オークランド観光・自由研修
- 8月20日(土) オークランドを発ち盛夏の日本へ





姉妹都市ニュージーランド研修2016

8月11日(木)~20日(土)の日程で、ニュージーランド研修旅行を実施し、廿日市市内在住の中学生7人(男子3人、女子4人)が参加しました。姉妹都市マスタートンでは、5泊6日のホームステイでニュージーランドの日常生活を体験しながら、交流のあるセントマシュー女子校や大野学園の姉妹校であるレイクビュースクールへの訪問、姉妹都市縁組のきっかけとなったジューケンニュージーランドのワイララパ工場の見学など充実した時間を過ごしました。今月号では現地での様子の概略をお知らせします。詳しくは、協会ホームページに報告書を掲載する予定です。

8月11日(木) 出発



JR宮内串戸駅にて出発式
見送りの廿日市市長、国際交流協会会長と一緒に

8月13日(土)~18日(木) マスタートン滞在



ソルウェー小学校で歓迎の「ハカ」



マスタートン市長といろいろ話をしました

8月18日(木) マスタートンとお別れ



ホストファミリーとお別れの記念写真

8月12日(金) NZ 到着



オークランド~ウェリントンの国内線で乗り合わせた子ども
に参加者が折り鶴をプレゼントして、早速国際交流!

セントマシュー女子校



日本語教室の生徒と英語
をまじえて意見交換



セントマシューの緑いっぱいのキャンパス

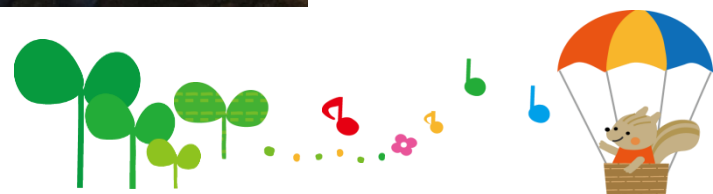
8月19日(金) オークランド見学



フェリーからオークランドを望む



ウェリントンのシックな建
物に思わずパチリ!



レイクビュースクールでサイクリングコースを走る



テ・クラ・カウパパ校ではマオリの歌やゲームを楽しんだネ



ホストファミリーに会えて、ほんとによかった。英語がもっと話せるようになったら、また会いに行きたいです。 希

今回の研修旅行で、今までより英語への関心が深まりました。レイジ

市長から名誉市民の証書をいただき、マスタートンの人の仲間入りができてよかった。大斗

今回の研修旅行で私の将来の夢が広がりました。 希羽

この研修で得た「積極性」で、これからはいろんなことに自信を持ってチャレンジしてみたいです。 絵理

マオリのあいさつで、おでこをくっつけ考えを共有し、鼻をつける時に同じ空気を吸っていることを表すという意味を知り、すてきだなと思いました。 遙香

やはり言葉の壁はありましたが、ジェスチャーを交えながら片言でもいから積極的に話しかけることが大切だと学びました。 幸一

平成28（2016）年度ニュージーランド海外研修旅行報告書

編集発行：廿日市市国際交流協会

廿日市市自治振興部協働推進課 国際交流・多文化共生担当

〒738-0014 廿日市市住吉二丁目2番16号市民活動センター内